

## 農業の生産基盤の強化

### ①スマート化による営農支援 (中山間地域スマート農業モデルづくり)



農研機構との鹿児島県での現地調査を通じ、2024.3月「スマート農業導入モデル」取りまとめ  
(労働時間削減効果、収支シミュレーション、生産者メリット見える化)

### 2024計画

#### 農業の持続的成長に向けた多様な担い手の確保と生産性向上支援

- ・域外企業の九州農業への参入促進 ～農業参入の課題解決に資するセミナー・シンポジウムの開催(経団連共催事業)
- ・地域企業による農業参入モデルづくり ～企業研修への農業カリキュラム導入や援農アプリ活用による地域農業への人的支援、新たな切り口での農業参入モデルの検討
- ・中山間地の営農存続の方向性提示 ～九経連・農研機構「スマート農業導入モデル」(2023年度実証)の九州各県への展開  
→耕作放棄地活用に向けて2024実証研究開始

### ②農業体験者の拡大 (援農マッチングアプリ)

農業従事者の平均年齢 **68.4歳**



マッチングアプリ「daywork」活用  
副業・ボランティアでの労働力支援  
企業研修への農業研修導入など  
(実績:19名/2社)

### ③域外企業の九州農業参入 (経団連との共催)



2023.10月「農業活性化に向けた企業タイアップセミナー(経団連会館)」開催  
(佐賀県・熊本県・大分県・宮崎県より  
誘致施策プレゼン、参加者134名)

# スマート化による営農支援(中山間地域スマート農業モデルづくり)

中山間地域とは 出展:農林水産省HP

農業地域類型区分のうち中間農業地域と山間農業地域を合わせた地域を指しています。  
中山間地域は、全国の耕地面積の約4割、総農家数の約4割、農業産出額の約4割を占めるなど、我が国の農業において重要な役割を担っています。  
また、雨水を一時的に貯留する機能(洪水防止機能)、土砂崩れを防ぐ機能(土砂崩壊防止機能)といった多面的機能が適切に発揮されている中山間地域は、国民の大切な財産です。

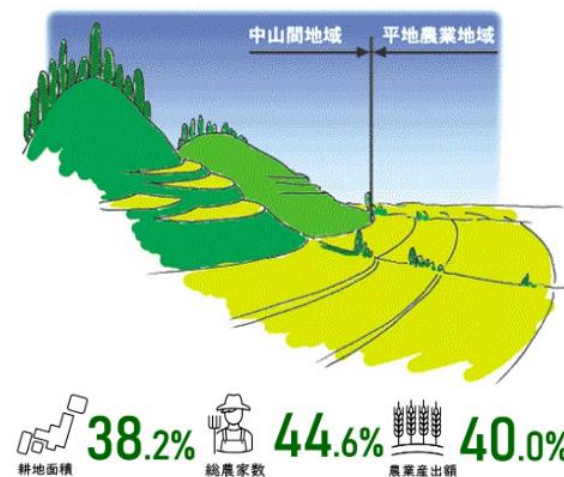
## 九州における現状・課題

- 中山間地域は農業経営体数の5割、水田面積の4割を占める
- 現状、中山間地域を対象としたスマート農業の実証が少ない
- 担い手の高齢化(農業全体の課題であるも、特に中山間地域では顕著)
- 離農が進むと、多面的機能を持つ中山間地域が存続できない

上記を踏まえ

「中山間地域におけるスマート農業モデルづくり」に着手

2023年度に鹿児島県にてモデル地域を選定し、農研機構と共同研究を実施



中山間地域の主要指標(令和2年)

| 区 分        | 全 国<br>(A) | 中山間地域<br>(B) | 割 合<br>(B/A) |
|------------|------------|--------------|--------------|
| (ア)人 口     | 1億2,615万人  | 1,336万人      | 10.6%        |
| (イ)総土地面積   | 3,780万ha   | 2,412万ha     | 63.8%        |
| (ウ)耕 地 面 積 | 437万ha     | 167万ha       | 38.2%        |
| (エ)総 農 家 数 | 175万戸      | 78万戸         | 44.6%        |
| (オ)販売農家数   | 103万戸      | 44万戸         | 42.7%        |
| (カ)農業産出額   | 8兆9,557億円  | 3兆5,856億円    | 40.0%        |

## 今後の展開

- モデル地域におけるスマート農業モデルを取りまとめ(2024年3月)
- 有効性など検証のうえ、九州各県への展開を検討(2024年度)